

絹本着色十六羅漢図



第十六尊者
注茶半托迦尊者
絹本着色十六羅漢図



第一尊者
賓頭羅跋羅墮闍尊者
絹本着色十六羅漢図



十六羅漢図の落款

よみ けんぼんちゃくしよくじゅう
ろくらかんず
指定 市指定有形文化財
種別 絵画
所在地 御前崎市池新田25番地の1
所有者 宗教法人 東泉寺
指定日 令和8年1月30日

詳細情報

寸法(本紙) 縦100.5cm～101.0cm、横50.5cm×50.7cm
作者 丸尾 月嶂 (1766～1827)
制作年代 文政8年 (1825年)

解説

本羅漢図の作者である丸尾月嶂(1766～1827)は、池新田村(現御前崎市池新田)に在住し、江戸時代後期に活躍した遠州地方を代表する画家です。月嶂は、幼少から画を好み、伊勢の寂照寺の画僧・月僊に師事しました。

本羅漢図は、16人の羅漢が1つの掛軸に1人ずつ描かれ、個性的で表情豊かな姿で表現されています。羅漢とは、悟りの境地に達した聖人を意味しています。十六羅漢は、羅漢の中から釈迦の教えを守り伝えるために選ばれた16人の弟子たちを指します。

曹洞宗 盤龍山 東泉寺は、丸尾家の菩提寺であるため、本羅漢図が寄進されたものと考えられます。

本羅漢図は、仏教の教えを視覚的に表現した重要な文化財であり、彼らの姿は、仏教の教えを広めるための象徴とされ、信仰の対象として多くの人々に親しまれています。

16幅それぞれに尊者名が記されていませんが第一尊者・賓頭羅跋羅墮闍尊者(びんとらばらだじゃそんじゃ)は、画面右に「文政八年歳己酉秋八月日 月嶂謹寫」の款記があり、その下に2つの印章が押印されています。また、第十六尊者・注茶半托迦尊者(ちゅうだはんたがそんじゃ)は画面左に「月嶂滕文恭謹寫」の款記があり、その下に2つの印章が押印されています。

本羅漢図が制作された時期は、文政8年(1825)8月とされ、丸尾月嶂の最晩年に描かれた代表する作品であり、16幅の掛軸がすべて現存していることや、制作優秀で御前崎市及びこの地方の文化史上貴重なものとの評価を得て指定されました。

※ 十六羅漢の尊者名は、通常以下に記すとおり、それぞれ第一から第十六までの順番と名前が決まっています。しかし、月嶂が描いた本羅漢図には、月嶂が落款で示した第一と第十六の尊者しか名前が分かっていません。そのため、本ページに掲載した本羅漢図の写真は、以下の十六羅漢の尊者名の順番どおりになっておりません。

十六羅漢の尊者名一覧

- 第一 賓頭羅跋羅墮闍尊者 (びんとらばらだじゃそんじゃ)
- 第二 迦諾迦伐蹉尊者 (かなかばっさそんじゃ)
- 第三 迦諾迦跋釐墮尊者 (かなかばりだそんじゃ)
- 第四 蘇頻陀尊者 (そひんだそんじゃ)
- 第五 諾矩羅尊者 (なくらそんじゃ)
- 第六 跋陀羅尊者 (ばだらそんじゃ)
- 第七 迦哩迦尊者 (かりかそんじゃ)
- 第八 伐闍羅弗多羅尊者 (ばしゃらほつたらそんじゃ)
- 第九 戒博迦尊者 (じゅはくかそんじゃ)
- 第十 半諾迦尊者 (はんたかそんじゃ)
- 第十一 羅怛羅尊者 (らごらそんじゃ)
- 第十二 那伽犀那尊者 (なかさいなそんじゃ)
- 第十三 因揭羅尊者 (いんかだそんじゃ)
- 第十四 伐那婆斯尊者 (ばなばしそんじゃ)
- 第十五 阿氏多尊者 (あしたそんじゃ)
- 第十六 注荼半託迦尊者 (ちゅうだはんたかそんじゃ)







